

Shalala



Sunport Hall Takamatsu

vol. 32

サンポートホール通信
[季刊シャ・ラ・ラ]
2011年秋季号
<http://www.sunport-hall.jp/>

- 須川 展也 × 小松 亮太 × 奥村 愛
Happy Tango Hour
- 青年劇場「修学旅行」
- 高松国際ピアノコンクール
ファイナリストコンサート
- レポート
こどものための
オペラ・ワークショップ
- 佐藤しのぶ ソプラノ・リサイタル
「カルメン・ファンタジー」



～世界の舞台上で活躍するプリマドンナの New Year に贈る艶やかな歌声～

佐藤しのぶ ソプラノ・リサイタル

カルメン・ファンタジー

……テノール/西村 悟 ピアノ/森島 英子

2012年1月28日(土) 13:00開演 (12:30開場)

サンポートホール高松 3階 大ホール

チケット [金席指定]	10月21日 発売	会員 ¥4,200	10月28日 発売	一般 ¥4,500	学生 (小学生以上高校生以下) ¥2,500
----------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------------------

Shinobu Sato Soprano Recital

ホール・ガイダンス

申込方法

- 窓口にて、使用許可申請書に必要事項を記入してください。
- 会議室、和室、リハーサル室、練習室はサンポートホール高松施設予約管理システム(インターネット)より仮予約ができます。
※ホール、市民ギャラリー、コミュニケーションプラザは不可

<http://www.reserve-sunport-hall.jp/bunyusr/usr>

申込受付時間

- 施設利用のご相談 … 9:00～17:30
- 施設使用申請・お支払い・利用者登録 … 9:00～17:00

申込受付期間

使用日の1年前の月の初日から、使用日の前日まで。

受付の順位

原則として先着順です。
ただし、受付開始日(毎月1日)については、抽選により順位を決定します。
詳しくは「ご利用案内」や財団ホームページをご覧ください。

<http://www.suport-hall.jp/>

さんぽーとCLUB

会員だけのうれしい特典やお得なサービスがいっぱい!
1年中いつでも入会できます。

会員期間	1年間	会費	年会費 1,000円
------	-----	----	------------

特典 ★サンポートホール高松のプレイガイド窓口でのご購入に限りです。


- チケットに関する特典
 - ・財団が指定するチケットを、一般発売に先立ち優先的に予約または購入できます。
 - ・財団が指定するチケットを、原則上限20%割引をした会員価格で購入できます。
※割引率は公演によって異なります。
 - ※会員価格で購入できるのは、会員お一人様5枚までです。
- 入会時の特典
 - ・入会と同時に、財団が指定するチケットを購入する場合、一般価格および学生価格から1,000円引きの価格で購入できます。
※ただし、1,000円引きで購入できるチケットは1枚までとし、初回入会時のみとします。
 - ※1,000円引きでチケットを購入と同時に、会員お一人様4枚までを会員価格で購入できます。
※1,000円引きの特典が適用されない場合もあります。
- その他の特典
 - ・財団が発行する情報誌や、催し物案内等を定期的にお届けします。
 - ・財団の主催事業で出演されたアーティストの記念品等を抽選でプレゼントします。

入会の手続き

- ご来館によるお申し込み
入会申込書に必要事項をご記入の上、年会費を添えて、サンポートホール高松のプレイガイド窓口にお申し込みください。
- 現金書留によるお申し込み
入会申込書に必要事項をご記入の上、年会費を添えて、サンポートホール高松友の会事務局宛てに現金書留で郵送してください。

会員期間について

会員期間は、入会日から1年を経過した日の属する前月の末日までです。以後、会員期間を更新するときは、その翌月の初日から1年間とします。



須川展也 × 小松亮太 × 奥村愛 Happy Tango Hour ハッピータンゴアワー

日時	2011年11月3日(木・祝) 14:00開演 (13:30開場)
会場	大ホール
チケット	一般 4,200円 会員 4,000円 学生 2,200円 (小学生以上大学生以下) 全席指定

プログラム

スペイン／チック・コリア
リベルタンゴ／ピアソラ
火祭の踊り／ファリャ
カフェ1930／ピアソラ
鮫／ピアソラ
ラスト・タンゴ・イン・パリ
首の差で／ガルデル
奥様お手をどうぞ／エルウィン
他

※都合により曲目が変更となる場合がありますので、
予めご了承ください。

今から約130年前、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスの港町ラ・ボカ地区から始まったとされるタンゴ。タンゴと聞くと、何だか大人が聴く音楽のような気がします。しかし、「赤鬼と青鬼のタンゴ」や「だんご3兄弟」のようなズツ・チャツ・チャツ・チャツというタンゴの軽快なリズムは、こどもたちもよく耳にしていますよね。今回の公演では、タンゴは初めてという方にも楽しんでもらえるスタンダード曲を中心に、「ラテン」をテーマとした活気あふれるナンバーをお贈りします。

アストル・ピアソラ

タンゴの歴史は、アストル・ピアソラの存在なしには語れません。アルゼンチンの作曲家で、バンドネオン演奏家の彼は、タンゴを元にクラシック、ジャズの要素を融合させた独自の演奏形態を生み出しました。元来タンゴは踊りのための伴奏音楽であったため、ピアソラの生み出した新しいタンゴは、完全にタンゴの表現を逸脱しており、「踊れないタンゴ」として当初の評判は芳しいものではありませんでした。しかし、90年代後半に突然のピアソラブーム到来。クラシック界でもピアソラが注目され始めたのです。その火付け役ともなった、世界的チェリスト ヨーヨー・マによる『リベルタンゴ』は、サントリーノのCMにも使われ、テレビでよく流れていたのがご存じの方も多いと思います。

タンゴの可能性を広げたピアソラの功績は、アルゼンチンのみならず国際的に高く評価されています。

Message

高松の皆様、こんにちは。11月3日に「ハッピータンゴアワー」という楽しく情熱的なコンサートで皆様の元へ伺うことになりました。小松亮太さん、奥村愛さんたちと一緒に、タンゴの情熱、切なさ、楽しさをお届けできればと思っています。もちろんメンバーそれぞれの得意な曲で腕を競い合う場面も(?)楽しんで頂けますよ。是非いらしてくださいね!

■■■ 須川展也 ■■■



©YujiHori

タンゴといえばアルゼンチン! ピアソラ! そして昭和を彩ったコンチネンタルタンゴ! 『ハッピータンゴアワー』はそのすべてを一夜で聴いていただくコンサートです。アルゼンチンの首都ブエノスアイレスから世界に発信されたタンゴ、そしてそのルーツとなる音楽を、一気に、ピカピカに磨かれたスーパープレイヤーたちの音色でお聴きいただけます。世界中をタンゴで旅する秋の一夜。あなたの大切な人といらしてください。

■■■ 小松亮太 ■■■



©Wataru Nishida

タンゴを演奏するというのは、禁断の地に足を踏み入れるかの如くワクワクします。もちろんクラシックとは生まれも育ちも違うので、演奏するにはそれなりの苦勞もあります。しかし、音楽は音楽。タンゴとクラシックの垣根を越えて、様々な曲をこんなに素敵なたちと演奏出来るなんて、なんと贅沢な時間なのでしょう!! サックス、バンドネオン、ヴァイオリンという異色の組み合わせですが、きっと新しい発見があるはずです。是非、情熱的な音楽の数々をお楽しみください!

■■■ 奥村愛 ■■■



©YujiHori

須川展也

サクソフォン

東京藝術大学卒業。第51回日本音楽コンクール管楽器部門1位なしの2位、第1回日本管打楽器コンクール・サクソフォン部門において第1位を得てデビュー。94年村松賞、出光音楽賞受賞。98年JTのCMに出演し人気を得る。メディアに多数出演し、02年4月よりNHK連続テレビ小説「さくら」のテーマ音楽も演奏。年間公演数は約100。海外でも積極的に活動し欧州各国、米国、中国、韓国等多くの国で演奏している。CDのリリースは30枚あまり。近年作曲家への委嘱も積極的にいき、吉松隆、西村朗、本多俊之、E. グレグソン、真島俊夫、M. エレベー各氏等に依頼、サクソフォン音楽の発展に力を注いでいる。1989年から2010年まで、東京佼成ウインドオーケストラ・コンサートマスターを22年余り務めた。現在、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者、東京藝術大学非常勤講師。クラシック・サクソフォンの可能性を追求し自由なスタンスで活動、サクソフォンを学ぶ若者たちの憧れの存在となっている。

小松亮太

バンドネオン

東京生まれ。98年、ソニーより衝撃的なCDデビューを果たす。共演は、ピアソラと共に活動したタンゴ界のトップアーティストたち。タンゴを若い世代にブレイクさせる引き金となった。以後、自身のユニットをひきいて多数の公演をこなしながら、自らのプロデュースによる意欲的な企画公演も行っている。CDは、すでに14枚リリース。これまでに大貫妙子、小曾根真、ミッシェル・ルグラン、NHK交響楽団など、ジャンルを越えて様々なアーティストと共演している。ソニーのコンピレーション・アルバム「image」、同ライブツアー「live image」にも、初回から参加。03年にはブエノスアイレスでライブを行い、アルゼンチン演奏家組合などから表彰された。また、05年には南米4カ国ツアーを行い、各地でソールド・アウトが続くなど、海外での活動も積極的に行う。08年には、ピアソラの幻のオラトリオ「若き民衆」の日本初演コンサートを企画し、東京オペラシティコンサートホールにて満員の観衆の中で公演を成功させた。09年には、初の書き下ろし本「小松亮太とタンゴへ行こう」(旬報社)を出版、日本経済新聞誌上にて絶賛された。2010年よりTBS「THE 世界遺産」のオープニングテーマ曲を作曲、演奏している。

奥村愛

ヴァイオリン

7歳までアムステルダムに在住。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースで学ぶ。辰日明子、ライナー・ホーネックの各氏に師事。第48回全日本学生音楽コンクール全国大会中学生の部第1位、第68回日本音楽コンクール第2位、他受賞多数。これまでに読売日本交響楽団、東京フィル、新日本フィル他国内の主要オーケストラとの共演をはじめ、04年にはP. ガロワ指揮シンフォニア・フィンランディアの日本ツアーにソリストとして参加するなど、海外のオーケストラとの共演も多数。富士山河口湖音楽祭などにも出演。CDは02年「愛のあいさつ」でデビュー、以来リリース多数。2010年11月に最新アルバム「ラヴェンダーの咲く庭で」を発売。親しみやすいプログラミングと自然体なトークによるリサイタルは各地で大好評を得ている。親子向けコンサートやワークショップも積極的に展開。テレビ・ラジオ等への出演も多く、多彩な活躍で注目されている。

岡野 勇仁 (ピアノ) 田中 伸司 (コントラバス)

What's バンドネオン
バンドネオンはリードオルガン、アコーディオンなどをもとに作られた楽器です。形はアコーディオンに似ていると言われることが多いですが、音色は独特なものがあります。また、この楽器は構造上、雅楽に使われている笙しょうという楽器や、ハーモニカと同じ系統に分類されま
す。
バンドネオンは、実はアルゼンチンではなく、ドイツで生まれた楽器です。1821年、楽器商のハインリッヒ・バンドによって発明されました。バンドさんの作った楽器なので、バンドネオンという名前になったということです。
バンドネオンは、最初は教会で演奏される携帯用オルガンの役割を担っていました。それがなぜアルゼンチンに渡ったのか詳しくは不明ですが、船乗りがドイツからアルゼンチンに持っていったのがきっかけになった、というのが有力な説です。
(小松亮太オフィシャルサイトより)



バンドネオン

音域: 5オクターヴに半音欠ける範囲
蛇腹: 1メートル近く伸びます
重さ: 約7~8キロ
ボタン数: 右38個 左33個
特徴: ★同じボタンを押しても、蛇腹を押した時と引いた時では違う音が出る。
★ボタンの並びがピアノのようにドレミファソ…の順番ではなくばらばらな並びである。

秋田雨雀・土方与志記念
青年劇場「修学旅行」

平成17年度全国高校総合文化祭演劇部門文部科学大臣奨励賞（最優秀賞）受賞作

日時	2011年12月18日(日) 14:00開演 (13:30開場)
会場	第1小ホール
チケット	一般 3,000円 会員 2,800円 学生 1,500円 (小学生以上高校生以下) 全席指定

～ものがたり～

舞台は沖縄県内のとある旅館。

青森の県立高等学校の一行は4泊5日の日程で
沖縄に修学旅行にやって来た。

今日は1日島内を巡り戦跡や記念碑を見学して

平和学習に取り組み、3日目の宿である

この旅館にたどり着いた。

消灯時間が迫るころ、3階「ゴーヤーの間」では

班長ヒカルが自分の班がまとまらないことに責任を感じ、
少々へこんでいる。

気をとりなおして「せっかくだから盛り上がりようよ」

と同室の4人に呼びかけるヒカル。

気を利かしたつもりで、共通の話題「好きな男子は誰？」

を持ち出すが、これが裏目に出てしまい、

ゴーヤーの間は戦争状態に突入してしまう…。

「修学旅行」
高校演劇から生まれた作品

『修学旅行』は、高校の教諭で演劇部顧問の畑澤聖悟が高校演劇部のために書き下ろした作品です。彼は現役の県立高校教諭であり、2006年までの勤務校である青森中央高校演劇部へ戯曲提供を行っていました。彼の指導のもと、全国高等学校総合文化祭演劇部門で2005年に『修学旅行』で最優秀賞を受賞しました。その後、『修学旅行』は従来の「高校演劇」という枠組みを大きく

く越え、一般の目に触れるための自主公演、テレビでの舞台中継、演劇鑑賞会等の依頼による招聘公演を実現するという、普通の劇団と比較しても全く遜色のない活動を行っており、さらに2006年には国内の公立高校で初めて、ソウルで招聘公演を行いました。



沖縄と戦争と修学旅行
修学旅行は学生時代の一大イベントです。このものがたりに出てくるヒカルたちも、青森から沖縄に修学旅行にやってきました。津軽弁の先生と生徒、沖縄弁の旅館の人たちの会話は明るく軽快に進んでいきますが、部屋にはなんだか険悪なムードが漂います。そこからくだらないケンカが始まるのですが…
「そこからは私の領土だから入ってこないで!!」
沖縄で平和学習をした高校生たちが旅館で繰り広げる枕投げバトル。自分の気持ちを相手に伝えるために本気で枕を投げます。飛び交う枕は今も世界のどこかで起こっている戦争の爆弾投下と重なって見えるかもしれません。
明るい日常の中に起こる争い、未来への不安、足もとの小さな幸せ、そんなことに心を浸してみてください。

脚本
畑澤 聖悟 (はたさわせいご)

1964年、秋田県生まれ。劇作家・演出家。演劇プロデュースユニット「渡辺源四郎商店」店主。青森を中心に東京でも精力的に公演を行っている。05年、『俺の尻を越えていけ』で日本劇作家大会短編戯曲コンクール最優秀賞を受賞。また、93年よりラジオドラマの脚本を多数執筆。98年『為信のクリスマス』でギャラクシー大賞ラジオ部門最優秀賞、99年『県立戦隊アオモレンジャーfirst』で日本民間放送連盟賞ラジオ娯楽番組部門最優秀賞、2000年『シュウさんと修ちゃん』で文化庁芸術祭大賞をそれぞれ受賞。現職の公立高校教諭でもあり演劇部顧問。自らの作・演出で各種高校演劇コンクールに出場している。全国大会では99年『生徒総会』で優秀賞・文化庁長官賞、05年『修学旅行』で最優秀賞・文部科学大臣奨励賞を受賞。06年には『修学旅行』のソウル公演を行うなど、海外からも注目を集めている。



修学旅行について

高校演劇には「戦争モノ」というジャンルが存在する。反戦のメッセージ、平和への祈りを高らかに歌い上げる。このジャンルに属する作品は実に多いのだが、扱われる題材は原爆や空襲や特攻、つまり61年前の太平洋戦争に限られる。現代日本の高校生にとって平和を考えることは61年前の戦争について考えることと同義であるらしい。批判しているのではない。意義のあることだ。大事なことだ。祖父母の記憶は決して風化させてはならない。しかし、である。こうしている間にもレバノンでは1000人を超える市民が戦火の犠牲となり、アメリカは14万の兵をイラクに駐屯させたままである。戦争は決して振り返るだけのモノではない。「平和とは、どこかで進行している戦争を知らずにいられる、つかの間の優雅な無知だ」アメリカの詩人、エドナ・セントビンセント・ミレーは1940年にそう書いた。高校生に限らず、現代の日本人は現代

の戦争との接点を持たない。接点がないということは共通の基盤の上になんかということである。自分の問題として考えることが出来ないということである。ならば、と考えた。戦場や戦火に巻き込まれた町ではなく、現代日本の高校生の生活場面を使い、現代の戦争を描くことはできないか。そうすれば接点のないところに接点を作ることができるはずである。そして書き上げたのが『修学旅行』。04年の秋のこと。プッシュの始めた戦争がイラクを泥沼の混沌に陥れていた。あのショックが創作の原動力となったことは白状しておきたい。「修学旅行」の舞台は沖縄の旅館の一室であり、そこで繰り広げられるのは5人の女子高生によるケンカ。そのたわいもなさを笑って頂いて結構である。しかしドタバタの中に込められたメッセージを読み取り、「どこかで進行している戦争」に思いを馳せて頂ければ、作者としてそれにまさる喜びはない。

演出
藤井 とう



1974年、東京都生まれ。劇作家・演出家。演劇集団R-vive主宰、現在まで『企画其の九』全ての作品の作・演出を担当する。一方、2001年より演出家 高瀬久男（文学座）の演出助手としても活動。また、近年では俳優養成所講師、ワークショップ講師、文化振興事業、子供やアマチュア主体の演劇公演、他劇団の演出を任されるなど、その活動の幅を広げている。

修学旅行のテーマ…

修学旅行とは「児童・生徒らに日常経験しない土地の自然・文化などを見聞学習させるために教職員が引率して行う旅行」(岩波広辞苑)ということらしい。改めてなるほど、と思わせるものだ。しかしきつとこの教職員云々がまず間違いの始まりなのかもしれない。親の心子知らず、教職員の心生徒知らず。心そこにあらずな生徒たち。

都会では自殺する若者が増えている、今朝来た新聞の片隅に書いていたけど、問題は今日の雨、傘がない テレビではわが国の将来の問題を誰かが深刻な顔をしてしゃべっているけど、問題は今日の雨、傘がない 君に会いに行かなくちゃいけないのに 傘がない

君の事以外は考えられなくなる それはいい事だろうか？

この「修学旅行」を一読して以来、わたしの頭の中にはこの

曲が鳴り響いている。もうテーマソングと言っても過言ではない、しかもメジャーでアップテンポときている(じゃあ歌って、と言われたら歌えないのだが…)。「傘がない」ことをとりわけ問題にしているはずなのに、その奥に広がっている世界の方が際立って見えてくるのだ。そして不安になる。だから「それはいい事だろうか？」と最後に誰かに問いかけざるを得なくなる。

とある限定された部屋、5人の凸凹グループ。物語はその部屋からとびだしていくことはない。だが、しかし5人はリアルにそこにいるのである。そこにイキイキと存在してしまうのだ、夫々の「問題」を抱えて。そこに5人の人間がいて、人生があって、他者と係わりあって、いつのまにかただのリアルを飛び越えて、今を生きる人の真理にまで到達する。だからこそ、そこから無限に想像をふくらませることができるのだ。今日の目の現象だけではない、そこに生徒らのいるリアルがあるからこそ、そこに立って思いを馳せることができるのだ。大いに笑って、ちょっと立ち止まる。誰かを、自分を介して、その奥に広がる世界が垣間見えてくるかどうか。それは一重に、僕らの想像力に委ねられている。

高松国際ピアノコンクール ファイナリストコンサート

日時 2011年12月3日(土) 14:00開演 (13:30開場)
会場 第1小ホール
チケット 一般 3,500円 会員 3,200円 全席自由

【後援】高松国際ピアノコンクール組織委員会

プログラム

モーツァルト/ピアノ・ソナタ 第13番 変ロ長調 K.333
シューマン/ピアノ・ソナタ 第1番 嬰ヘ短調 作品11
ラヴェル/夜のガスパール
亡き王女のためのパヴァーヌ 他

この英国王立音楽大学は、1882年に英国皇太子エドワード7世により設立され、作曲家グスターヴ・ホルスト(代表作『惑星』)、コンスタン・ランバート(代表作『バレエ』『ロミオとジュリエット』)、元ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団首席フルート奏者ジェームズ・ゴールウェイなどの著名な音楽家を輩出してきた歴史ある音楽大学として有名です。また、学生の約4割が海外留学生という国際的な音楽大学でもあるため、世界中から集まった才能ある学生が、高度な教育を受けられるよう、専門指導が行える音楽家が講師陣として揃い、サポート体制は万全。中でも、特徴的なプログラムにギャップ・イヤープログラムがあります。これは、より高い能力を持つ学生が、音楽業界で経験を積むために一定期間オーケストラで演奏することなどが認められています。彼女も、恵まれた教育環境の中で、オーケストラとの共演など様々な演奏経験を積むことで、持ち前の素晴らしい表現力に磨きをかけ、「第2回高松国際ピアノコンクール」で優れた成績を残しました。

「高松公演に寄せて」石村純

高松国際ピアノコンクールでは、数多くのサポートや心温まる声援を頂き、またそれぞれのステージを通して、貴重な経験と多くの事を学ばせて頂きました。そんな素敵な思い出がいっぱい詰まった高松の地で、今回再び演奏させて頂ける事を大変嬉しく思っています。

また、今年3月の東日本大震災では、その深刻さを海外でも取り上げられ、心痛むニュースが耳に入り、亡くなられた方々や被災者の方々に、心から深くご冥福を祈り、またお見舞い申し上げます。自分が目指す未来へ、強い信念を持って直向きに突き進み、音楽に向かって日々精進することで、自分なりに日本の未来へ、少しでも貢献できる道をつくられたらと思います。

ロンドンでの勉強の成果と、少しでも成長した私の姿を、コンサートで皆様にお届けできた幸いです。また12月に皆様にお会いできることを心待ちにしております。



TIPC提供 撮影: BANAZO

「石村純さんに期待」 高松国際ピアノコンクール組織委員会

第2回高松国際ピアノコンクール岩崎淑審査員長は次のように述べています。「2位の石村さんは、音も美しく、楽曲の構成や技術、音楽性も整った、欠点の少ないのびのびとした演奏をされました。すでに多くのコンクールで入賞している一方で、経験が音楽に表れていましたね。」また池辺晋一郎審査員は「石村さんは、音楽性も素晴らしいのですが、ファッティオリのピアノがすごく新鮮に響き、彼女の音楽に合っていたと思います。」と述べています。(以上いずれもピアノ音楽誌「シヨパン」2010年5月号より)

組織委員会としては、今回の演奏会では更に成

ロンドンでの音楽生活が実を結ぶ

本公演は、高松国際ピアノコンクールのファイナリストによる公演です。第1回は、2007年8月に「第1回高松国際ピアノコンクール」ファイナリストのソファ・グルヤクを迎えました。第2回となる今回は、「第2回高松国際ピアノコンクール」において、21歳という若さで第2位、および財団法人高松観光コンベンションビューロー理事長賞に輝いた、石村純を迎えて開催します。

石村は、2007年に英国王立音楽検定協会から奨学金を得て、ロンドンにある英国王立音楽大学に留学。現在は同大学大学院に在籍しています。

新国立劇場 こどものためのオペラ劇場 「パルジファルとふしぎな聖杯」関連企画

こどものための オペラ・ワークショップ

日時 2011年7月3日(日) ①14:00 ②16:00
会場 第1リハーサル室

【講師】新国立劇場合唱指揮者/三澤 洋史
新国立劇場演出チーフ/三浦 安浩
ソプラノ(マクダレーナ役)/園光 ともこ
バス(クリングゾール役)/峰 茂樹
ピアノ/三澤 志保
【新国立劇場ホームページ】http://www.nntt.jac.go.jp/
【制作】新国立劇場



出演する歌手や、作品を手掛けた指揮者、演出家を迎えて、「こどものためのオペラ・ワークショップ」を開催し、2回のワークショップに6歳から14歳の子どもたちとその保護者、合わせて94名が参加しました。

最初に、指揮者の三澤さんや演出家の三浦さんからオペラについてのお話を聞きます。「オペラってなに?」「こどものためのオペラ?」「は見事に解決!でも、こどもたちもまだまだ緊張気味です。」



オペラ「パルジファルとふしぎな聖杯」のお話が始まります。「勇気」を持って生きていくこと、「感謝」の気持ちをお忘れなさい。主人公パルジファルの成長を通して、こどもたちに伝えたい想いを語る講師にも思わず熱が入ります。

物語のヒロインであるマクダレーナ役の園光さん、邪悪な魔法使いクリングゾール役の峰さんが登場。ピアノ伴奏に合わせてオペラ

の一場面を上演しました。生の歌声の迫力と声響き合う空間に圧倒された。一瞬にして緊張感もほぐれ、気持ちがいよいよ引き込まれていきます。



ワークショップのメインプログラム「オペラを体験してみよう!」に突入。本公演では、物語の鍵となる「グレルダンス」が登場します。これはみんなの気持ちを一つにして踊ることで、「聖杯」に大きな力を与えることができる大切なダンスです。

こどもたちが演じるのは、クリングゾールに奪われてしまった「聖杯」を、マクダレーナと一緒に「グレルダンス」を踊り、みんなの力を合わせて取り戻すという3〜4分のシーン。



最初は動きもぎこちなく、その上ダンスも踊らなければならず、ス

ステージに見立てた会場内を、ただぞろぞろと移動していきただけのこどもたち。しかし、三澤さんや三浦さんから本場の稽古さながら、「ダメ出し」や「演技指導」を受けて繰り返し演じる



うちに、クリングゾールの登場に驚きの表情を見せ、「聖杯」をきちんと目で追いつながらの演技ができるようになりまし。最後はしっかりとカーテンコール!大切な夏の思い出がひとつ増えました。



大切な夏の思い出がひとつ増えました。

今年の夏休み、こどもたち「生の舞台芸術」に触れてほしいという想いで、新国立劇場によるこどものためのオペラ劇場「パルジファルとふしぎな聖杯」をお届けしました。生のオーケストラによる本物のオペラ公演です。こどもたちにもわかりやすいように日本語で上演、客席全体で参加するシーンもあり、観終ったこどもたちは、初めての感動と興奮の中、たくさんの笑顔で手を振って帰って行きました。

その本公演に先立ち、こどもたちにオペラをもっと知ってもらおう、体験してもらおうと、作品に